

蓬萊町だより



第四十号

平成6年11月15日  
発行者 蓬萊町文化部  
編集者 文

菜町界限 (その三十四)

八百屋お七のこと (下)

林 順信

●浮世絵と羽子板は「櫓のお七」

「火事と喧嘩は江戸の華」というが、火事にまつわる劇的な出来ごとヒロインと来れば、言わずと知れた八百屋お七、文京区真砂図書館では、去る十月二日から二十九日まで、「八百屋お七の眠るまで」という特別展示会を行った。

お七のことを文学的にとり上げた井原西鶴については前回で説明したが、演劇(芝居、人形浄瑠璃)の方では、史実に多少の脚色をして、宝刀の行方を詮索したりして、咄の筋におもしろさを加えている。人形浄瑠璃での題は「伊達娘恋緋鹿子」というもので、操り人形に義太夫というコンビで、主として「櫓のお七」という見せ場を作っている。

江戸時代にあった、町と町との境界を木戸で

開閉して(七ツの午前四時から暮れ六ツの午後六時までしか自由に通れなかった)いた木戸と番小屋と火の見櫓に御制札と天水桶という背景の道具立て、闇夜に降る白雪の中を、乱れたお七が櫓に上がって太鼓を叩くというクライマックスとなっている。

緋と浅黄色の葉の鹿の子模様は、漆黒の冬の暗夜にくっきりと映えて、舞い散る白雪の中の悲恋のお七は、芝居の当り狂言として今日まで人気が続いている。

江戸時代から版行されている浮世絵も、この「櫓のお七」の名場面を描いたものが多い。

また毎年十二月十七日十九日に行われる浅草寺の羽子板市では、必ずといってよい程「櫓のお七」が各店に一枚か二枚は飾って売っている。江戸風の方ではまだ見たことがないが、あってもよさそうなものだと思う。

●お七の時代に町火消しはなかったが……

本年の四月二二日に、NHKの3チャンネルの古典芸能で、「櫓のお七」の人形ぶりを放映していた。演ずるは澤村藤車さん、義太夫は竹本義太夫、三味線は鶴澤正一郎さんだった。

ご案内の通り人形ぶりは、黒づくめの後見が二人ついて踊るのだが、役者が人形の真似をするのだから、顔には喜怒哀楽の表情が出ては不可ない上に、手や体の動きも鋭角に、多少ギョ

子ない動きにするのに苦労があるという。着物の中に、血の通った人間が入っていることを忘れさせることを名演技なわけである。

東西、とうざいの口上のあとに、三味線に乗って義太夫はかたる。名文句のかずかず。

「降りしきる あとにお七は心も空。二十三夜の月出の内と 体はここに 魂はよその嘆きも白雪の さりゆく遠寺の鐘ころころと

響き渡れば おや、あの鐘は早や九つ たとえ刀は手に入っても 今宵中に届けねば 吉三さんはやっぱり御切腹、こりやもうどうしよう

悲しやと 立ったり見たり気もそぞろ よその見る目も哀れなり おおそれよ何はともあれ吉三さんのお目にかからん そうじゃそうじゃと

馳け出せしが いやいやいや もはや木戸を打つたれば 知らずに知らされず ええ羽根がほ

しい 翼がほしい 飛んで行きたい 知らせたい 逢いたい見たいと夫恋いの 千々に乱るる

憂き思い かつぱと伏して泣きいたる」

このあたりで、千々に乱れて舞ふお七の人形ぶりがも徐々に妻さを増して行く。

「よくなき人に言問わば、なんと答えん烏羽玉の星の光も小夜ふけて またひとしきり降る雪に 袖うち払う軒やどり 内と外面に踏み迷う ただうとりと立ったりしたが ふっと気のつく火の見る櫓 おおそれよ あの太鼓を打つ時は 出火と心得町々の木戸を開くと杉の話

思いのままに馳けつけて 吉三さんのお命を  
助けいでおこうか 太鼓打つたるこの身の科  
踏みすべる梯子はもとより剣の山のぼる心は  
三悪道 お七は難なく火の見の上 撥おっ取っ  
て打つ太鼓 杉は難なく奥の間より 短刀携え  
馳い乗り お七は飛んでおちこちの後のうわさ  
を――

ひとしお激しく吹雪の中で、お七は太鼓を何  
度となく激しく叩きつづける場面はまたに一幅  
の絵となっている。

この場合、本来なら火の見構の上には太鼓で  
なく半鐘が吊り下げたのであるのだが、芝居小屋の  
中とても、鐘の音を響かせては、町なかで「そ  
れ火事だ！」と、江戸っ子の早合点が走り出す  
のを防ぐ意味があったのだという。

またお七を描いた縦二枚つづきの芳年の浮世  
絵が有名で、その模写したものを、本郷消防署  
やその他に掲げている。この場合背景に火消し  
の纏が描かれている。絵のにぎやかさとか出来  
上がりとしては纏は絵になるもので絵師として  
は当然のことなのだが、史実から言うとおかし  
い。江戸四十八組の纏が制定されたのは大岡越  
前守のいた享保三年（一七一八年）からのこと  
である。八百屋お七の捕えられたのは天和二年  
（一六八二年）のことなので、三十六年も昔か  
ら、町火消しはまだ誕生していなかったことに

なる。でも固いこと言わずに浮世絵は浮世絵で  
鑑賞すればいいと思う。

纏が出たところで、かねがね考えていた。  
江戸の纏と蓬萊町との関係などについて、次回  
からは、なるべく江戸期と明治期の地図や纏や  
伴纏などについて書きたいと思っている。

### 町会活動の概要

平成6年8月上旬から

10月中旬まで

### 総務部

過日の根津神社大祭に際しましては、町内皆  
様より過分なるご芳志並びにご支援、ご協力を  
賜りまして誠に有難うございました。

お陰様をもちまして、9月17、18両日は天候に  
恵まれ、2年に一度の本祭りは町内を挙げて、  
大変に盛大で、賑やかに町内神輿並びに山車の  
渡御を営む事が出来ました。

当初は大人神輿の担ぎ手の申込者が少なく、心  
配致しましたが町内を巡行する内に段々と担ぎ  
手に加わる方が増え、終盤近くには百人程の若  
い方達が頑張ってくれました。

今後、どうぞ宜しくご参加下さる様お願い  
いたします。

8/29御神酒所（北部、青木様）御仮屋（中央

宣伝、株、様）並びに神輿、山車、渡御中に休  
憩をさせて戴くお宅（6軒）へご挨拶に伺いま  
した。

9/8根津神社に於いて祭礼に伴う、交通問題  
を所轄警察署交通担当係員と打ち合わせ会議

9/17神輿倉出し（午前7時）引続き祭礼準備

9/18午前9時半、子供神輿、山車、渡御出発

午前11時40分 帰着、午後1時、神社神幸列町

内巡行に児童20名山車曳きに参加、午後2時、

大人神輿、渡御に出発、午後8時御仮屋にて打  
上げ

9/19御神酒所、御仮屋、片付け及び神輿倉入  
れ（午前6時作業開始）

9/21根津神社、例大祭、祭事実行される

10/12役員会に於いて祭礼特別会計の決算報告  
を行いました。

祭礼会計決算報告書が本号の頁末に掲載してご  
ざいます。ご覧下さいませお願い申し上げます。

10/17「区長と区政を話し合う集い」が向丘出  
張所で午後7時より行われました、皆さんお出  
掛けに成りましたでしょうか。

10/22駒本小学校創立40周年記念式典が行われ  
ました。

11/6向丘地区カラオケ大会、予選会が東京ガ  
ス文京支社の会場で行われました。

## 防火防災部

9/1「防災の日」文京区役所、本郷消防署の共催により東大農学部グラウンドに於いて防災訓練が行われました。

当町会も一時非難の想定で、向丘二児童公園に集まり、警察官の先導で会場へ、本郷地区の各町会の方々（二千人超）が参加して有事の際の心構えや、初期消火、応急手当等、参加された皆さんと体験をして参りました、この様な催しは回覧、掲示等によって必ず町内の皆さんにお知らせしております。

是非、次の機会には1人でも多くの方が参加して下さる様に望んでおります。

10/26防火協会、理事会（秋の火災予防運動について）

「秋の火災予防運動」は11/9から11/15まで実施されます。

貴重な財産を灰にしては悔やんでも悔やみ切れません、火の元にはお互いに十分注意をして災害を未然に防ぎましょう。

11/13文京区、本郷消防署共催により「防災コンクール」が六中校庭で午前9時から行われま

す。  
ご近所の方とお誘い合わせになって、是非ご参加下さい。

## 防犯部

10/11から10/20まで「秋の防犯運動」が実施されました。

警察白書に見られるように、社会の国際化が進み、外国人をも含む凶悪な事件が急激に増えております。

都会では、隣近所でも、どんな人が住んでいるのか、知る事も無く、お互いに共存しているのが実状ではないでしょうか、当町内でも、空き巣による被害も多々あるように聞いています。家を留守にする時は、しっかり鍵をかけ、近所の方に一声掛けてお互いに助け合うのが、犯罪を未然に防ぐ良い手段の様です。

## 交通部

9/21から9/30まで「秋の交通安全運動」旬間でした。

当町会では、交通部、婦人部、友の会、皆さんの賛助を得まして期間中、街頭に出て、運転者、歩行者の方々に交通安全の啓蒙に努めて戴きました。

## 文化部

8/10蓬萊だより 第39号 配布

## 婦人部

10/12「共同募金」募金会に納付いたしました。いつもながら、この様な募金につきましましては、暖かいご協力を頂戴し、誠に有難うございました。

今回の納付金額は、左記の通りです。

一金 一七一、八〇〇円（二四八件）

## 青年部

9/4祭礼用、「提灯」を幹旋致しました所、多数のご注文を戴き祭礼に華やかな雰囲気が増えられ、感謝しております。

提灯と飾り花のみの原価幹旋ですので、部員の手作りで梓木を作り、申込みのお宅に取り付けをいたしました。

取り外して置きますと次回にも使えますので、提灯と一緒に保管して戴く様をお願いいたします。

11/27向丘地区町連による対抗試合は、「ドッチボール大会」を予定しております。当日には皆さん奮ってご参加下さい。

## 計報

当町会にお住まいの方で本年8月から10月中旬までの間に逝去なされた方のお名前は左記の通りでございます。

謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福を祈念申し上げます。  
記 北島 ふく様

蓬萊句壇

秋の蝶塚碑は從四位勳五等  
秋鯖を手早くおろす浜女

ゆかり

いさかいの口の端悔ゆる夜の秋  
秋しぐれ根津の裏坂歩を速む

すえ

佳き事に使ふと決めて新小豆  
湯の里に夢一を偲ぶ秋桜

マス子

新ささげ蒸籠は軒に吊し干す  
久々に生まれ在所の栗の飯

向雪

色鳥の今朝も来ており無縁坂  
爽秋や黒光りする自在鉤

喜一

思い出は善きも悲しきも杜鶴草

千重

文月や電話で済ます筆不精  
小豆煮る香りがさそふ峠茶屋

連木

編集後記

つい2ヶ月前までの記録的な猛暑も忘れ去り  
そうに季節は晩秋に入ってまいりました。1年  
と言う月日は、光陰矢の如く、早々と通り過ぎ

て行く様にも感じる今日この頃でございます。  
「蓬萊だより」も本号で40回目になりました。  
創刊号は昭和57年1月に始めての発刊と言う事  
で、緊張と興奮に打ち震えながら寄稿を集めた  
記憶が未だございます。

時の過ぎるのは早いもので、既に12年を経過し  
ております。町会の広報紙として、日々の町会  
事業の内容をお知らせするのが主な目的になり  
ますが、町会事業と申ししても、内容は堅く  
月々の事業も、時は変わっても判で押した様に  
繰り返しの連続に成らざるを得ません。

従って、紙面内容に妙味が乏しく、会員皆様に  
少しでも興味をもって見て戴ける紙面にしようと  
考えております。

それでも幸いにして、第4号より林 順信先生  
から「蓬萊町界隈」と題してご寄稿を願う様に  
なり、今日まで面目を保たせていただいている  
次第ですが、更に、この上、会員皆様方からご  
寄稿の提供を戴ければ、より充実した紙面を飾  
る事になります。

内容は、町内の故事、生い立ち、出来事、俳句  
短歌、何でも結構です、順次、紙面に掲載させ  
て戴きますので、奮ってお寄せ下さる様お願い  
を申し上げます。

編集委員

小林 音吉、竹中 一馬、川西 正造、  
猪熊 良晃、池田 暉

平成6年 根津神社祭礼収支明細

収 入		支 出	
前期繰越金(定期)	1,200,000	奉納関係費	160,000
“(普通預金)	53,052	設営 “	585,423
寄付金	2,278,500	寄付 “	150,990
雑収入	28,453	渡御 “	1,155,132
受取利息	78,168	保存 “	131,220
鉢洗会費	37,000	半天在庫高	47,500
		平成6年積立金	300,000
計	3,770,173	昭和59~平成4年積立金	1,200,000
		次期繰越金	39,908
		計	3,770,173